



オスプレイと米軍基地は、不要です 米国政府は イラクのLGBTを殺した

パトリック・リネハン米国総領事さま

こんにちは。この間も各地で活発に活躍のご様子、拝見しております。

直接お目にかかるのは、5月に大阪の米国総領事館で行われたLGBT講演会以来となります。5月の時は、私が米国政府の方針を公然と批判したにもかかわらず、誠実にコミュニケーションしようとするリネハン総領事を始めとする領事館側の方々に、個人としてそして外交官の役職としての両面から、感銘を受けました。またその際、関西クィア映画祭への領事館としての後援も検討できるとのお話も頂きました。

その後、ビショップ領事さまより後援についてのメールを頂き、それへの返信で「正直にお話をしたい」と6月17日にメールをお送りしました。また6月21日にも、メールの不着を危惧して別のメルアドからメールを差し上げましたが、お返事を受け取る事ができていません。その後も、企画のご案内メールなどは届いているのでメール事故ではないと思うのですが、万が一ということもあるので、突然ではありますが、ここに書面で改めて書かせて頂いています。

6月21日のメールにも書きましたが、今年の関西クィア映画祭2012では、8つの米国作品を上映します。いずれも素晴らしい作品ですので、映画祭まであと1週間しかありませんが、もし可能であれば領事館としての後援をいただければ幸いです。

- Gen Silent (<http://gensilent.com/>)
- Gun Hill Road (<http://www.gunhillroad.com/>)
- Cloudburst (<http://www.cloudburstmovie.com>)
- Leave It On The Floor (<http://www.ballmusical.com/>)
- A Perfect Ending (<http://www.soulkissfilms.com/a-perfect-ending.html>)
- Fishnet (<http://www.fishnetthemovie.com/>)
- Waxie Moon in Fallen Jewel (<http://www.fallenjewel.com>)
- Genderbusters (<http://www.wix.com/berliner/genderbusters>)

付言しますと、ご存知のように米国にもたくさんのクィア系映画があり、私個人としては特に、トランスジェンダー映画の力強さや豊かさに、そしてコミュニティー内部のレイシズムに反対する主張を踏まえた映画たちに、強く共感を覚え、いつも励まされてています。そういった米国の映画に、米国政府の後援が付くのであれば、それは私にとっても素直な喜びになります。

ただ、リネハン総領事は米国政府を公式に代表して日本におられるという立場であるため、私がリネハン総領事とコミュニケーションをする機会がある場合には、後援の件以外にどうしてもお伝えしなければいけないことが幾つかあります。それは少なくとも【オスプレイと米軍基地は、不要】ということと、【米国政府は、イラクのLGBTを殺した】ということを含みます。「正直にお話をしたい」というのは、このことを指しています。（その他にも、TPPの押し付けや日本の脱原発政策への介入、パレスチナを侵略し続けているイスラエルへの支援の



不当性、グアンタナモ収容所での不当拘束・人権侵害など、米国政府の方針には、私が問題だと考える点が多数ありますが、ここでは触れません)

私は、米軍による沖縄へのオスプレイ配備に強く抗議します。そもそも米軍の銃剣とブルドーザーによって土地を奪って作られたのが沖縄の米軍基地です。在日米軍基地面積の7割以上が沖縄に集中している現実、日本国内におけるレイシズム・植民地主義にほかならず、そこに加えて危険なオスプレイを配備するなど、許されることではありません。目の前で行われる暴力に黙することは、暴力に加担することを意味します。私は、すべての人の人権が大切だと考え、また日本のレイシズムに反対することは人権のために不可欠の取り組みだと考える一人の活動家です。もしリネハン総領事が人権が大切だと考えられるのであれば、オスプレイの沖縄配備を直ちにやめるよう、また沖縄の米軍基地を返還するよう、本国政府に意見を伝えてください。

また、5月にも発言したことですが、米国政府が「LGBTの人権」と世界に訴え始めた時、私は強い違和感を感じました。もちろんLGBTの人権は（LGBTではない性的マイノリティーの人権や、性的マイノリティーではない人の人権と同様に）大切ですが、それを、他国を侵略し他国の人々を殺してきた、つまりイラクのLGBTをも殺してきた、人権侵害の超大国である米国が主張しているからです。もし米国政府が人権を主張するのなら、少なくともまず米国政府によるイラク侵略（それは、ありもしない核兵器を「有る」とウソを付くことで始められた、世界の多数の国の反対も無視して行われた、何の正義もない侵略戦争でした）を間違いだったと認め、開戦を決定した責任者を人道に反する罪で訴追し、イラクの人々への謝罪と賠償を済ませてから言うべき言葉です。この問題に触れずに米国政府やその代理人たる領事が「人権」を主張するのは、説得力がありません。

「LGBTの人権」を主張することが、沖縄差別を容認したり、イラクのLGBTを見殺しにすることと同じであってはなりません。そうではなく、沖縄やイラクのLGBTをも含む「すべての人」の人権が守られる社会を作るために、リネハン総領事も、私も、取り組まなくてはいけないと思うのです。上記の米国政府を批判する意見に対して、もし同意いただけるのであればご自身の意見として、同意いただけない場合でも「日本のクィアコミュニティから寄せられた意見」として、本国政府にお伝えいただくよう、お願い申し上げます。

5月にお話したように、私たちには当然意見の違いもありますので、お互い正直に意見交換することが何よりも大切である、と私は思っています。こういった問題も含めて話し合っていけるような関係を作ることが出来れば、まさるものはありません。

お忙しいところとは思いますが、ご検討のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

末尾になりますが、リネハン総領事のご健康をお祈り申し上げます。朝晩の寒さが厳しいこのごろですが、ご自愛下さい。

2012年10月7日

ひびの まこと（関西クィア映画祭2012代表）
メール：hip@barairo.net
ウェブ：http://barairo.net/
電話：090-1156-3039